



しばはら 芝原

養鶏家
(52歳=野尻町三ヶ野山)

やすひこ 靖彦 さん

小林市消防団長



4

小林人 こばやしびと Vol.42

5

6

4 芝原さんの朝は早い。この日は朝5時から消毒に取りかかった5「畜産は環境美化も大切」と景観には特に気を配る。人や鶏のストレス緩和として敷地内にはショパンやモーツァルトが流れている6 趣味は自動車レース(SUPER GT)の観戦。団員らと観戦に行くことも

もつと多くの市民に見てもらいたいよね。父の真剣な姿を見て、未来の消防団員も生まれるはず。1月に行われる出初式も、市民が気軽に参加できるイベントにしたい、と模索中。こういった発想は、若者中心に創意工夫で客をもてなす野尻の伝統「のじり湖祭」の実行委員長を2度務めたこともある芝原さんならではの。ともに団活動に励み、プライベートでも親交のある梯真砂寛分団長(第10分団)は、「気さくだし、とにかく熱い。何にでも真つも新しい発想で引つ張ってきた。この人になら付いていきたいと思います先輩」

と信頼を寄せる。 仕事は養鶏業。1年に無薬鶏50万羽を出荷している。それをほぼ一人で担っているというのだから、多忙な日々だ。しかし、いつ起こるか分からないのが、火災や自然災害。手元には常に携帯電話と無線機を置いている。趣味の溪流釣りにも「携帯電話の電波が入らないから」と、長らく行っていない。「気の抜ける瞬間がないのでは？」と聞くと、「そう、常に気が抜けないのよ」と、気にもかけない様子で笑い飛ばした。 わたしたちのまちを守る小林市消防団。その団長は、面倒見が良く、きさくで熱い。そんな人だった。

1



2



3



1 操法大会で団員を率い行進。部員の絆が深まる操法には、特に深い思い入れを持っている2 操法大会で振る舞われたかき氷を食べる子どもたち3 「いつでも、万全の状態でかけつけられるように」。車の中には、ヘルメット、拡声器や無線機などの道具がびっしりと並んでいる

団員一人一人が地域のリーダー。そんな地域密着の消防団を目指したい

火災、自然災害、行方不明…。まちを襲う危機からわたしたちを守る「小林市消防団」。その団員500人を統率しているのが、芝原靖彦(52歳=野尻町三ヶ野山)団長だ。今年4月に団長に就任。役職を越えた「仲間の輪」を信条に、組織運営に取り組んでいる。「団員一人一人にやりたいことや思いがあるはず。レクリエーションをして親睦を深めたり、既成観念にとられず、若い力と発想を団活動に反映できる、そんな

な「オリジナル」の消防団にしていきたい。 もう一つの信条は「地域密着」だ。「学校活動でもなんでもいい。日頃から地域と交流して、地域の人から相談を受けられるような団員の集まりになれば、こんな頼りがいのある集団はない。まちおこし、地域おこしにもなると思う」。 芝原さんがまだ若い団員の頃、地域の高齢者から「煙突が危ないから掃除してくれ」と頼まれ、それは消防団の仕事なのかと、首を

かしげながらも請け負ったことがある。だが、高齢化が進む今だからこそ、そういった活動が必要になると感じている。「できる範囲でいい。普段から地域の絆を深めておくことで、いざ」というときに生きてくるはずだから」。 市民にとってより身近な消防団になるための工夫は、操法大会にも。芝原さんの発案で、一般用の観覧席をつくり、かき氷も準備。「早朝や夜遅くまできつい練習を続けた団員の姿を、